

令和5年度 江戸川区立中小岩小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たかましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	魅力と活力にあふれ、信頼される学校 よく考え、思いやりのあるたかましい子 職員自身が最大の教育環境
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> タブレット端末を活用した学習や学習活動、ホームページから発信する学校情報の増加など、中小岩小学校の教育活動への理解を広げる基盤づくりを進んだ。 <課題> 6年間で育成する児童の資質・能力を明確し、学力や体力の向上とともに児童の成長を促す教育活動を展開するための充実を図ることが課題である。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・年3回の授業観察と面接の実施 ・東京方式による算数指導の実施 ・各家庭への家庭学習習慣の定着に向けた啓発	・東京ベージャックドリル…平均正答率75% ・全国学力学習状況調査…区平均正答率 ・各学年×10分の家庭学習時間…50%以上	B	C	東京ベージャックドリルの平均正答率が平均60%である。全国学力学習状況調査及び家庭学習時間の取組については、設定目標を達成している。課題として、東京ベージャックドリルで問われる基礎基本の学力が定着するよう、放課後補修教室の取組を充実させる。	C	学力向上の取組は区全体の取組にもなっている。とくに基礎学力の定着は重要であり、引き続き取り組んでほしい。	・放課後補修教室の充実 ・各教科における読解力の指導工夫
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科において思考ツールを身に付けさせ、各教科等と相互に関連付けた学習を行う。 ・夏季休業日を活用して、読書科指導に関わる研修を行う。	・探究的な学習の読書科…年12回実施 ・研修…年1回実施	B	B	○思考ツールを活用した読書科指導を年12回実施 ●読書科指導に関わる研修内容や学習センターである図書館の蔵書の充実	B	江戸川区独自教科読書科の取組を生かした探究的な学習の充実を図る 学習センターや読書センターとしての学校図書館機能強化や適正な蔵書の管理	・読書科のわらいや取組が分かる情報を発信 ・必要に応じて、読書科の研修を実施
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> 児童一人一人の体力の向上につながる取組を、年間指導計画に位置付けて実施	・中休みの時間を活用して、異年齢交流を関連付けた運動遊びを行う。	・運動遊び…年35回実施 ・縄跳び週間…2学期に実施 ・持久走週間…2学期に実施	A	A	○運動遊び年35回の実施 ●縄跳び週間と持久走週間の2学期に実施 ●運動遊びを通して高めた運動能力を、次年度の体力テストで発揮できるようにすること	B	運動が好きな児童や健康な体づくりの取組の充実を図る	・異年齢交流と関連付けた運動遊びの工夫
	体を動かすことが好きな児童を増やし取組を実施	・運動会をリニューアルし、スポーツを楽しむ特別行事として実施する。	新しいスポーツ行事…6月に実施 学校評価…肯定的な児童80%以上	A	A	○新しいスポーツ行事「なかさスポ」を6月に実施 肯定的な児童の回答が95%を達成 ●「なかさスポ」の趣旨を生かし、豊かなスポーツライフにつながる行事として定着させること	A	現在に取組を継続して行い、わらいを明確にした境域活動を推進する	・来年度の実施に向けた実施計画案の作成
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンガレッジメントの活用促進 ・副都府交流、交流及び共同学習の実施・充実 ・簡潔で分かりやすい情報の発信とシステムの強化	・特別支援教育委員会において個別指導計画に基づいた指導を行う。 ・特別支援学校と連携し、副都府交流を行う。 ・通常の学級と特別支援学級と日常的な交流や共同学習を行う。	学習指導に関わる検討…年3回 ・直接交流児童…1名以上の受け入れ ・共同学習…月平均1回	A	A	○学習指導に関わる検討を年3回実施 直接交流児童を1名受け入れ 交流や共同学習を2学期途中より毎週実施 ●通常の学級との交流学習や共同学習の推進するための環境を整備すること	A	多様なニーズへの対応と充実を図り、共生社会の実現に向けた取組を推進する	・交流活動をより円滑に推進するための実施マニュアルの作成準備
	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・子どもたちの健全育成に向けた取組 ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・スクールカウンセラーとの情報共有の時間を設定し、関係機関と連携した対応策を実施する。 ・5年生対象面接と全学級SCとの給食を実施 ・hyper-QUを実施し、その結果を学級経営に生かす	・SCと管理職との情報共有…年30回以上 ・5年生面接…7月までに全児童1回以上 ・SCとの給食…全学級1回 ・6月までに実施	A	A	○SCと管理職との定期的な情報共有35回実施 5年生面接を7月までに完了 SCとの給食を全学級1回実施 hyper-QUを6月までに実施 ●hyper-QUを活用した学級経営を充実させること	A	hyper-QUを活用した学級経営の事例などを参考に、児童の自己有用感を高められる指導の充実に取り組む	・hyper-QUの活用例に基づき研修等の実施
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・情報発信機能を強化し、学校の教育活動や取組への理解を広げる。 ・年4回の学校公開を行い、児童の学習や教師の指導の様子について公開する。 ・指導教諭による授業公開等を行い、関係校における指導法の普及等に取り組む。	・ホームページアクセス件数…年10万回 ・土曜授業公開…3回 ・平日授業公開…1回実施 ・公開授業…年3回実施	B	C	○ホームページアクセス数7万回の達成 土曜授業を4回実施 平日授業を1回実施 公開授業を4回実施 指導教諭による授業公開や研修を年3回実施 ●学級担任等によるホームページ記事の作成や学校だよりと連動した内容の充実を図り、アクセス数10万を達成すること	C	情報発信の回数増やすための組織的な対応すること に期待する	・職員による記事作成の取組強化 ・スマートフォンでも見やすいホームページ画面の作成への取組
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会と合わせて学校関係者評価委員会を行う。	・学校公開に合わせ各学期1回実施	B	B	○学校公開を各学期1回実施し、内2回が学校公開に合わせて開催 ●より一層多様な意見を聴取し学校経営に生かせるよう開催方法や内容を検討すること	B	本校の掲げる経営方針を具現化するために、多様な意見の聴取に努め、スピード感のある取組を期待する	・次年度の教育計画の準備と並行して学校公開の在り方の検討
特色ある教育の展開	<開校80周年記念の取組> ・学校、家庭、地域が開校80周年を祝い取組を通して、本能教育活動への理解を広げる	・周年行事や取組に児童が参加できる取組を行う。	・全校記念撮影…4月実施 ・開校記念行事の実施…6月と11月の2回 ・児童が作成する記念誌のページ…2頁	A	A	○全校記念撮影を4月実施 開校記念行事を、6月、11月、2月に実施 記念誌に児童が作成する頁を2頁作成 ●開校記念日を軸とした学校の歴史を振り返る機会を設けること	A	毎年の開校記念日を、教育活動の一つとして位置付けた取組を検討する	・ホームページを活用した情報発信 ・開校80周年記念式典後も、学校の歴史を振り返られるサイトをホームページに作成する。
	<特別活動の充実> ・各教科等と特別活動との相互に関連付け、児童の学びに向かう力、人間性等の向上を図る ・働き甲斐を実感する職場づくりの推進 ・ライフワークバランスの取組を推進するとともに、本校の実態に合った校務改善を一層推進する。	・学習のねらいと振り返りを必ず行い、児童自身が学びの成長ができるよう計画する。 ・職員一人一人の勤務内容と超過時間を見直しに取り組む。	・学校評価…肯定的な回答80% ・超過勤務時間…年度末までに月45時間の達成	A	A	○肯定的な回答90%を達成 ●各教科と特別活動を相互に関連付けた教育活動を展開するための組織や内容の見直し	B	児童が主体的に社会参画することや合意形成を図るための指導の充実を図る	・今年度の成果と課題を踏まえた次年度計画の着手
				B	C	○超過勤務時間について78%の教員が月45時間を達成 ●職員一人当たりの仕事量を見直すこと	C	月45時間の実現に向け、引き続き取り組む	・毎月の超過勤務時間の確認と自己申告の機会と捉えた働き方についての面接を実施